

## くれよんクラブ（児童発達支援）評価表（事業所用）

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%	プログラムや人数に合わせ行っています。	
	②	職員の配置数は適切である	83%	17%		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%		改修工事を行い、誰でも安全で過ごしやすい空間づくりを行って参ります。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	83%	17%	改修工事を行い設備の充実に取り組みました。	今後も子どもの様子を感じながら工夫を重ね維持して参ります。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	83%	17%		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	83%	17%	意見箱の設置を行っています	利用保護者にアンケートを実施し、ご意見をプログラムなどの変更や改善に生かしています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83%	17%		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%			今後検討していきます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		引き続き、積極的に参加をしています	今後も職場内研修を定期的の実施し職員全体での学びを続けて参ります。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	67%	23%		
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	23%		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%		「保護者支援」という表現を用いて「家族支援」「地域支援」をとらえ支援内容を設定しています	今後、支援内容をより具体的に表現し実施していくよう努めていきます
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		年間のプログラムを作成し活用しています。	様々な発想から展開できるように情報収集を行っていきます
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	100%			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		支援開始前にミーティングを行い確認している。1日の動きをノートに残し確認できるようにしています。	

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		毎日実施しています。より効率のかつ有効的な方法をさらに検討していきます。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		関係機関との情報交換等に活用しています。	より具体的な表現や記録の取り方などを今後も検討していきます
	20	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%			
関係機関や保護者との連携関係機関や保	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者にそのこどもの状況に精通した最もふさわしい者参画しているか	100%			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	100%		定期的に会議を実施。また、日常的に情報交換をしています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解	100%			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%			研修に積極的に参加しています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	17%	83%		新たな形での取り組みを検討して参ります。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	83%	17%		委員会には積極的に参加を引き続きしていきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	83%	17%		4、5歳児の保護者を対象としたペアレント・トレーニングを実施しています。
保護者への説	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	83%	17%		利用契約時に実施しています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	83%	17%		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			職員全体が心掛けて実施しています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17%	83%		

明責任等	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%		日頃から関係機関と連携を図り対応しています。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83%	17%	毎月「くれよんだより」を発行しています。	内容も含め、充実した内容を検討して参ります。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	100%		必要に応じて個別的に確認をしています。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	34%	66%		開所式、内覧会も実施すること下出来た、状況を踏まえながら、開催して参ります。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	83%	17%		法人全体でマニュアル作成を行うとともに保護者への周知も行っていきます。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		毎月実施しています。	施設や様々な状況に応じた訓練を行って参ります。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%		面接時やアセスメント票にも記入し、確認しています。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%		保護者を通じて確認しています。	職員研修を強化して専門的な知識を高めていきます。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%		事例に基づき、会議等での対応策等検討しています。	日々実践できる工夫をしていく。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	83%	17%	研修への参加や実施をしています。	法人でも事業所でも取り組んで参ります。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	83%	17%		法人全体で指針も作成し実施しています。今後も研修会を含め学んで参ります。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。